

# 地域防犯の「動く広告塔」に

春日市長(福岡県) 井上澄和  
Sumikazu Inoue

## はじめに

春日市は、福岡市の南に隣接する面積14・15㎢の九州一狭い市です。人口は10万9400人、人口密度は那覇市に次いで九州で2番目に高く、転出入が年間1万5000人以上にのぼっています。そのため、人間関係や地域の連帯感が希薄になりがちで、いかにして地域の絆を深めていくかが、私の政治姿勢の基本になっています。

## スポーツで地域を元気に

私は、平成11年春日市長に就任する前は、福岡県議会議員を3期12年務めました。当時は、国民体育大会の開催地で全国道府県議会議員軟式野球大会が開催されていました。私は本県チームのキャッチャーで毎年大会に参加するのを楽しみにしていました。平成2年とびうめ国体」が地元福岡県で開催されたときの全国大会は今でも心に残る熱い思い出です。日ごろは自己主張の強い議員ですが、何度も合同練習や合宿を行った結果チームとしてまとまりが良くなり、ついに夢の福岡ドーム(現ヤフードーム)で東京都との決勝戦、1対0で念願の優勝を果たすことができました。

これがご縁で、市長に就任してからも福岡ドームに春日市民応援団300名を深めることこそ、犯罪が起りにくい環境をつくり出す最大の要因だと強く感じてきました。

今では、学校や地域が連携して地域の子どもを見守る機運が高まり、朝夕の児童の登下校時には、多くの市民が交通の要所に立って子どもたちに声を掛けている様子を見る度、亡父のかつての姿を思い出しています。

## ウォーキングの「ついで隊」

市長に就任して以来、「市民がまんなか」



「ついで隊」の腕章をつけてウォーキング

前にして当時のダイエーホークスの公式戦で2回も始球式を経験させてもらいました。地域の絆が深まり、応援が一丸となった瞬間のストライクのコールに対する拍手の大きさは、改めてスポーツの持つ力を認識した時でした。

以来、毎年地元の県営春日公園でホークス2軍の試合が開催されており、スポーツ少年団の子どもたちの指導育成のみならず、多くの市民がスタッフとして参加し地域に活力を与えてくれています。

また、地元のジュニアラグビーチームの会長として、ニュージーランドのラグビーチームと3年毎に交流を図ってきました。子どもたちが外国の文化や生活習慣に触れることで、故郷の素晴らしさを再認識するきっかけになっていると思います。

その他、柔道協会の会長として、子どもたちの練習や試合を見るのも楽しみです。「柔能く剛を制す」との言葉通り、体は小さくても、あきらめずに果敢に挑む姿に、かえって元気をもらっています。

## 亡父のかつての姿を胸に刻んで

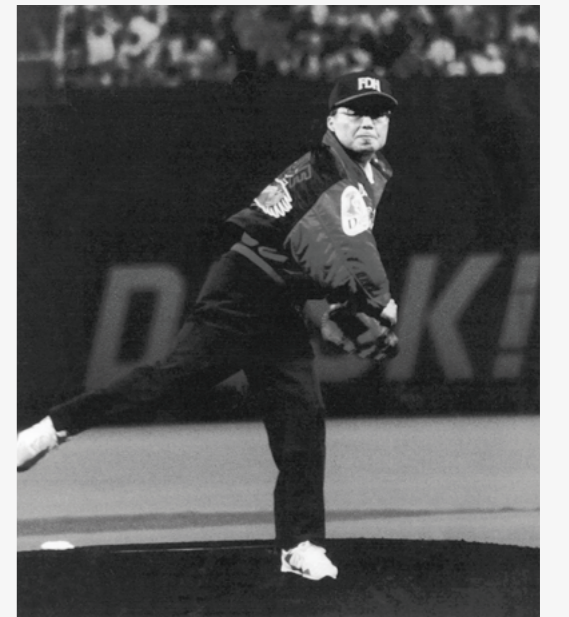
6年前に亡くなった父は、生前36年間保護司として活動していました。私がかつて

「市民と共に創る見える市政」を標榜して、積極的に市民との対話や意見交換を年間通して続けていますが、市長職は、想像以上に激務です。

それを実行していくには、まず自身が健康でハードスケジュールに耐え得る体力を培うことが重要です。

私の一番の健康法はウォーキングです。前もって自分の時間を確保するのが難しく空いた時間に手軽にできるからです。コースを30分・60分・90分・120分の4つに分け、時速6キロメートルの速さを保ちながら市内を歩いて回っています。四季折々の町並みの変化を実感しながら、道行く人とあいさつを交わしたり、時には道路の危険箇所を見つけたりなど、有効に歩いています。

このようなことを通して、気軽に市民相互の連帯意識を高めることができないうものか考えていたところ、市民の中からパトロールのボランティアができないかとの機運が高まり、平成16年に警察署・防犯協会・行政が連携して『ついで隊』事業が発足されました。構えず、気負わず、自然体で、買い物や散歩など日常生活の延長線上で安全安心への目配りをするもので、博多弁でいう「そげん大したことじゃないか、ウォーキングのついでタイ」のついで隊です。反射材を使用した腕章



福岡ドーム(現ヤフードーム)での始球式

だ高校生の頃から、狭いわが家に同じ年頃の少年たちがよく父を訪ねてきていました。その中で、今でも私の心に深く刻み込まれた光景があります。それはわが家の毎年暮れの恒例行事のひとつである餅つきを始めた時のことです。訪ねてきた少年を父は餅つきに参加させ、上手に餅をつく様子を褒めては家族の輪の中に入れて、つきたての餅を食べさせたのです。その時の少年は本当にわが家の一員のようでした。家族や地域が温かく見守れば、罪を犯した人もきっと更生できるという父の信念を感じた出来事です。

そして今、父の意思を受け継ぎ、妻が保護司を拝命して14年になります。亡父の頃と随分世情が変わってきていることもあり、妻が一喜一憂する姿に、行政を担うものとして、家族や地域の絆

を身に着けることで犯罪抑止や交通事故防止に結び付けることができます。現在、3,483人の市民が登録しており、防犯はもちろんのこと、あいさつを交わす機会が増え、コミュニティ形成に役立っていると好評です。

私も早速この腕章を着用して、ウォーキングを楽しんでいます。かなり目立つので、よく声を掛けられます。市長として、地域防犯のための「動く広告塔」になり、これからも健康作りと併せて安全安心のまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。先憂後楽の精神で。



市内一斉の夜間パトロール